

# 月刊 音故知新

## 第三のエア・コンディショナー

### 「村上ラジオから森林保護まで」

村上春樹さんのエッセイはとても面白いし話題のバリエーション（抽斗）が広いのでよく読みます。

2000年くらいに雑誌アンアンに連載していた「村上ラジオ2」が10年ぶりに復活し、2011年に単行本化されました。

エッセイなので時間軸には縛られ易いのですがそこは村上さん、普遍的テーマへの変換も実に巧です。

その中に『携帯電話とか、栓抜きとか』というお話があります。

「1960年代にクロード・ルルーシュの監督した『男と女』という映画がありました。知ってますか？このあいだ何かのついでにこの映画を見ていたら、主演のジャン・ルイ・トランティニアンが車の中で携帯電話を耳にあてるシーンがあった。え、ちょっと待てよ、この時代に携帯があるわけないだろ、と思ってよく見たら、ただの電気剃刀だった」

まあ、何かのついでにこの映画を見てしまうような人であれば、ジャン・ルイのこの時の感情に寄り添うこともないだろうから、髭剃りと携

帯を間違えることもあるのだろうなと思いましたが。

お話はその携帯電話からいつの間にか栓抜きに移り、時代とともに必要なものも変わって行く、みたいな進行になるのですが。

「しかし考えてみたら、ビールの栓抜きを使うこともなくなっちゃった。ビールは缶で飲むより、瓶で飲んだ方がはるかにおいしいです。その証拠に、もし鮎屋で缶ビールが出てきたら、大方の客は「冗談じゃない」と苦情を申し立てるはずだ。なのにみんな家に帰ると（おそらく）文句ひとつ言わず缶ビールを飲んでいる。しかしくしゃっとつぶされたビールの空き缶って、なんか切ないですね。そう思いませんか。それに比べれば空き瓶って、いつもすくっと直立していてきれい」

村上さんのお話はこのように、飲み終わった缶と瓶の見た目の美しさ、その佇まいのような感じから、瓶ビールのほうがおいしいし、好ましいと結論付けられるのですが、もうひとつ踏み込んでみると。

私たちエムズシステムは会社創立の2000年からずっと熱帯森林保護団体（レインフォレスト・ジャパン）というNGOを支援させて頂いています。

アマゾンの森を守る活動を続けているのですが、その中で、なぜこの団体を支援させて頂こうと思ったか、その理由の一つに、ビールのア

ルミ缶の話があるからでした。

ブラジルから輸出されるアルミニウムの最大の消費国が日本で、そのうち、かなりの部分が缶ビールなどのアルミ缶として消費されています。そのアルミの原料となるのがボーキサイト。アマゾンの森の下にはこの原材料がたくさん埋蔵されています。

ボーキサイトを掘り起こすには、その上にある森が邪魔です。森を燃やし、根こそぎにしてボーキサイトを採掘します。この原料からアルミを取り出す精錬には大量の電気が必要になりますので、たくさんあるアマゾン川の支流をせき止め、ダムを作り、発電し電気を供給します。そのための工事には産業道路が必要になり、幅の広い立派な道路が建設されます。

道路は生態系を分離、分裂させ、空からは枯葉材が撒かれ、森が燃やされます。劣悪な環境のもとにボーキサイトが採掘され（その労働力としてアマゾンの原住民であるインディオも動員されます）、アルミが製造されます。

そのアルミの主な消費国が日本なのです。で、その日本ではどのように使われているかというところ、飲み干した、空になったビール缶はくしゃっとつぶされ哀れな姿でごみ箱に行くか、道端に捨てられているのです。

もう一度、村上さんのエッセイに戻ると、

「昨夜飲んだアルミ缶を朝に見るたびに、わけもなく空しい気持ちになる」

きっと、わけもなく空しいと書かれていますが、そのアルミ缶から発せられている波動にどこか

哀しみの波長が混ざっているのだと思います。

レインフォレスト・ジャパンも声高に森林保護を叫ぶばかりでなく、こう問いかけています。

『もしある日、ある日の午後、今まで缶ビールを買っていたすべての人が、なぜか瓶ビールに手を伸ばし、すこし重たいけれど、今日はいつもよりうまいビールを飲みたいと、アルミ缶のビールではなく瓶ビールを選んだら、その日から、世界は一瞬にして変って行く可能性があります』と。

売れないアルミ缶を作り続けるビールメーカーはないし、使い捨てにするようなアルミの需要は減り、森を燃やすという自殺行為に急ブレーキをかけることができるかも知れないのです。

村上さんはアマゾンの森林保護という言葉を使わずに、「わけもなく空しい気持ち」という文学的フレーズで読者を誘導してくれていたのかも知れません。

それにしても『男と女』を何かついでに見るなんて！

20 世紀に作られた恋愛映画の最高傑作のひとつですから次回はもう少し、真面目に見てもらいたいと思います。

## 「幸せになるスピーカー」

「それにしてもスピーカーを作っている会社が『人を幸せにしたい』という目標を掲げていること自体に興味を持ってしまいましたね」

先日受けたインタビューで Y さんはこう切り出しました。

「それとね、正直言いまして、エムズシステムのスピーカーをじっくりと聴いてみたかったんですよ、個人的にも」

ということで、いつものようにまずはビル・エヴァンスの『ワルツ・フォー・デビー』を聴いて頂きました。

「本当にこれは凄いですね。こういうスピーカーはいままでにはありませんでした。不思議だなあ。構造とか理論は説明していただけじゃないですかね」

一生懸命長い時間をかけて説明させて頂いても、現在の音響工学的な見地からすると矛盾しているので、最後にはそれはおかしいのでは？と言われてしまうかも知れませんが、まずは実際にご体感していただくようにしているのです。

「確かに。この構造では、こんな音は鳴らないことになっていますからね。それにしても壮大な目標を掲げていらっしゃるんですね。2020 年には世の中が少し良い方向に向かい始める。と書かれていました」

そこまでホームページを読み込んで頂けてとてもうれしいです。会社沿革のような頁で、2020 年にはこうなっているというところですね。

「スピーカーのメーカーさんなのに、まず最初に『良い音を聴かせるつもりはない。』

人の心の中にある不平、不満、不安を取り除きたい』という目標が掲げられていました。

これは凄いことですよ。

普通は、良い音を聴いてもらいたいののでこの会社がありますとか、スピーカーを作りました、とかになるんですけど」

そうですね。

第三者のことにまで想いを至らせるには、まず自身の心にゆとりがないと。

心のゆとりを生み出すものは、整った、居心地の良い環境で暮らしているということが大切だと思います。

一生のうち、一度だけこのスピーカーに投資していただければ、豊かな空間、寛いだ環境が実現します。そこで生活していれば自然に心のゆとりも生まれてきますよね。

Y さんにはインタビューと同時にエムズシステムの各機種をご体感頂きました。

とても楽しい 1 時間でした。

この記事は来月末に発行されますので、また皆さまにもお伝えしたいと思います。

発行: 有限会社エムズシステム

代表 三浦光仁(ミウラテルヒト)

104-0041 東京都中央区新富2-1-4

電話: 03-5542-7432 FAX: 03-5542-7431

<http://mssystem.co.jp>

e-mail: [info@mssystem.co.jp](mailto:info@mssystem.co.jp)

